



ファンタジウム

マジシャンの祖父に憧れて育ったサラリーマンの北條は、生前に祖父がとった唯一の弟子である中学生、長見良に出会う。卓越したカードさばきを見て、良にマジックの才能があると確信した北條は、良をプロのマジシャンに育てあげてことを決意する。だが、大人顔負けのマジックの腕を持ち、どこか達観したふうである良は、実は字が読めない・書けないという難読症を抱えていた。

漫画『ファンタジウム』はマジックを題材として扱っているが、単に主人公の良がマジックを披露して、その解説がされるだけの漫画ではない。良をはじめとする登場人物の成長や生きざま、心と心のつながりを丁寧に描いたヒューマンドラマ、それがこの作品の本質である。難読症が招く孤独と闘いながら、己のマジックの実力で未来を切り拓こうとする良や、良の行く末を見守っていきたくと願う北條。それぞれの思いが幻想的なマジックとともに語られ、魔法にかけられたかのような感覚を読者に与える。

「好きなことで競争したくない……それは俺にとってすごく大切なことから」

難読症でいじめられたことがあり、他者の痛みに対して敏感な良は、他者を追い落とすことを恐れてわざとコンテストで失格になる。一方で、人々を感動させる特別な力を持っているのだからマジックで頂点を目指すべきだと北條に言われ、思い悩む。周囲の人々が示してくる模範的な自分と、そうありたいと思うことができない現実の自分との間で葛藤する姿は、人生の選択に悩む大学生にも共感する部分があるのではないだろうか。

マジックにまつわるエピソードが巧妙にちりばめられたストーリーは、非常に完成度が高く、「漫画はストーリーが稚拙になりがち」と漫画を敬遠している方にもおすすめしたい作品である。あなたも良たちが織り成す「魔法」にかかってみてはいかが？

(十の字)



『ファンタジウム』

出版：講談社

著者：杉本亜未

定価：580円（税抜き）

1～7巻既刊

はみだし
すてーじ

なんと読者カードが2枚挟まっていた！ これって当たり……？
⇒大当たりです！ レアです！

(医・3 沢)
(はみだしすてーじにも2回投稿でき……るわけではありません、すみません；編)